

みずほマーケット・トピック(2024 年 10 月 11 日)

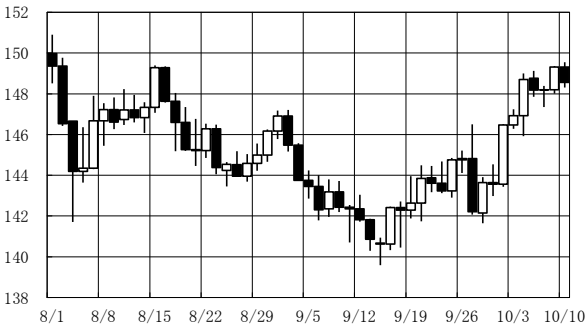
内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。	

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

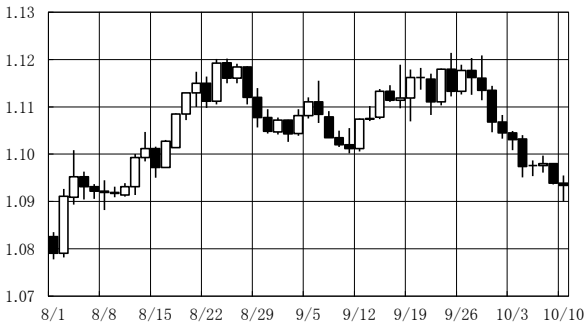
- 今週のドル/円は米金利上昇を受け約2か月ぶりの高値を付けた。週初7日、148.78円でオープンしたドル/円は先週末のドル買い地合いが続き上昇してスタートも、本邦政府高官による円安けん制発言が伝わり148円台前半まで反落。海外時間は、市場心理の悪化および米国株下落が嫌気され、一時148円を割り込むなど続落した。8日、ドル/円は日本株下落や米金利低下を受け再び148円を割り込む展開。海外時間は、中国当局による追加景気刺激策が市場期待ほどでは無かったことを嫌気し、一時週安値となる147.35円まで下押し。その後は、米金利上昇を受け148円台前半に反発した。9日、ドル/円は中国追加景気刺激策の期待再燃を受け、148円後半へじり高。海外時間は、低調な米国債入札を受けた米金利の一段高が材料視され、149円台前半に続伸した。10日、ドル/円は材料に欠ける展開の中、149円台前半でレンジ推移。海外時間は、米9月消費者物価指数(CPI)の強い結果を受け8月2日以来の高値となる149.58円まで急伸も、その後は米新規失業保険申請件数の弱い結果が材料視され、米金利低下と共に148円台前半まで反落。その後も米金利の動向に振られながら上下し、結局148円台後半で引けている。本日のドル/円は、引き続き148円台半ばで取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは週半ば以降、米金利上昇が重しになり2か月ぶりの安値を付けた。週初7日、1.0970でオープンしたユーロ/ドルは独8月製造業受注の軟調な結果を受けて1.09台半ばに下押す場面もあったが、その後は買い戻されほぼ往って来い。8日、ユーロ/ドルは独8月鉱工業生産の好調な結果を受け一時週高値となる1.0997まで上伸も、その後は米金利上昇が嫌気され下落、ほぼ往って来いで引けた。9日、ユーロ/ドルは米金利上昇が重しになる中、1.09台前半にじり安となった。10日、ユーロ/ドルは強弱入り混じる米経済指標の結果を受けて上下した後、米金利上昇が材料視され8月8日以来の安値となる1.0900ちょうどまで下落。もっとも引けにかけては、米金利の上げ幅縮小を受け1.09台前半に値を戻した。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.09台前半で取引されている。

		前週末	今 週				
		10/4(Fri)	10/7(Mon)	10/8(Tue)	10/9(Wed)	10/10(Thu)	
ドル/円	東京9:00	146.86	148.78	148.15	148.15	149.15	
	High	149.01	149.10	148.38	149.36	149.58	
	Low	145.93	147.83	147.35	148.02	148.28	
	NY 17:00	148.64	148.21	148.20	149.31	148.60	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1036	1.0970	1.0976	1.0976	1.0941	
	High	1.1039	1.0987	1.0997	1.0981	1.0955	
	Low	1.0952	1.0955	1.0961	1.0936	1.0900	
	NY 17:00	1.0976	1.0975	1.0981	1.0940	1.0938	
ユーロ/円	東京9:00	162.11	163.16	162.63	162.56	163.16	
	High	163.34	163.57	162.81	163.45	163.58	
	Low	161.09	162.32	161.93	162.40	162.19	
	NY 17:00	163.21	162.64	162.69	163.34	162.45	
日経平均株価		38,635.62	39,332.74	38,937.54	39,277.96	39,380.89	
TOPIX		2,694.07	2,739.39	2,699.15	2,707.24	2,712.67	
NYダウ工業株30種平均		42,352.75	41,954.24	42,080.37	42,512.00	42,454.12	
NASDAQ		18,137.85	17,923.90	18,182.92	18,291.62	18,282.05	
日本10年債		0.88%	0.92%	0.92%	0.93%	0.95%	
米国10年債		3.97%	4.03%	4.01%	4.07%	4.07%	
原油価格(WTI)		74.38	77.14	73.57	73.24	75.85	
金(NY)		2,667.80	2,666.00	2,635.40	2,626.00	2,639.30	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 欧州では、17日(木)にECB政策理事会が開催される。前回9月会合は▲25bpの利下げを実施。先々のインフレ率に関しラガルドECB総裁は、「我々の以前の予測が裏付けられ、タイムリーに目標に向かっていている。特に2025年の間に、インフレ率は我々の+2%目標に向かって低下する」と述べた。年内の利下げ路線は堅く、2025年に入ってから持続可能というのがメインシナリオだ。ただし、懸案の賃金動向に関し、先行性の高い求人広告賃金の動きを踏まえれば、妥結賃金は来年初めにかけて再浮揚する可能性がある。来年以降の利下げペースは依然不透明だ。なお、市場は10月会合での▲25bp利下げをほぼ100%織り込んでいるが、域内経済指標の軟化やECB高官によるハト派発言に駆動された部分が大きい。今回合会直前にはユーロ圏9月消費者物価指数(HICP、確報)が公表予定だが、1日に公表された速報時点のデータは、総合ベースで前年比+1.8%と3年以上ぶりに+2.0%目標を下回って推移した。
- 本邦では、18日(金)に9月消費者物価指数(CPI)が公表予定。コアCPI(生鮮食品除く)に関し、前回8月の結果は+2.8%(前年比、以下同様)と市場予想に一致し、7月の+2.7%からは伸びが加速した。コメ価格上昇などを受け、生鮮食品除く食料価格が+2.6%から+2.9%へ伸びが拡大、コアCPIの上昇に寄与した。なお、エネルギー要因も除外したコアコアCPIは+2.0%となっており、7月の+1.9%から僅かに伸びが加速した。総じて物価は下げ止まり感があるが、賃金を反映しやすいサービス価格も、+1.4%と低位に沈んでおり、基調的物価が上向いているとは言えない。なお、9月の結果(全国)に関しブルームバーグの事前予想では、総合ベースで+2.5%、コアベースで+2.3%と見込んでいる。

	本 邦	海 外
10月11日(金)	_____	・独9月消費者物価指数(確報) ・米9月生産者物価指数 ・米10月ミシガン大学消費者マインド(速報)
14日(月)	_____	_____
15日(火)	・8月鉱工業生産(確報) ・8月設備稼働率	・独10月ZEW景気期待指数 ・ユーロ圏8月鉱工業生産 ・米10月NY連銀製造業景気指数
16日(水)	・8月コア機械受注	・米9月輸出/輸入物価指数
17日(木)	・9月貿易収支 ・8月第3次産業活動指数	・ユーロ圏8月貿易収支 ・ユーロ圏9月消費者物価指数(確報) ・ユーロ圏ECB政策理事会 ・米9月小売売上高 ・米9月鉱工業生産
18日(金)	・9月消費者物価指数	・ユーロ圏8月ECB経常収支 ・米9月住宅着工/建設許可件数

【当面の主要行事日程(2024年10月～)】

ECB政策理事会(10月17日、12月12日、1月30日)
IMF世銀・年次総会(10月21日～26日)
日銀金融政策決定会合(10月30～31日、12月18～19日、1月23～24日)
米大統領選挙 投開票(11月5日)
FOMC(11月6～7日、12月17～18日、1月28～29日)

金融市場部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2024年10月10日	世論が望むのは「デフレ脱却」ではなく「インフレ脱却」
2024年10月9日	失速が目立ってきたユーロ圏の経済・金融情勢
2024年10月8日	円相場の基礎的需給環境の現状と展望
2024年10月7日	円の基本シナリオに変更の必要は？～雇用統計を受けて～
2024年10月4日	週末版
2024年10月3日	日銀短観(9月調査)と日銀の「次の一手」
2024年10月2日	外貨準備構成通貨の近況について(2024年6月末時点)
2024年10月1日	「石破カラー」は当面お預け～「3年でデフレ脱却」の不安～
2024年9月30日	石破政権が市場にもたらすのは希望か、失望か
2024年9月27日	週末版(145円到達と日銀の「次の一手」～それでも「時間的な余裕はある」～)
2024年9月25日	家計資産の外貨比率は過去最高～避けたい日本版トラスショック～
2024年9月24日	改めて考える日銀10月利上げの難易度
2024年9月20日	週末版
2024年9月19日	FOMCを終えて～思い出される糊代論と今後～
2024年9月18日	自民党総裁選～各候補の立ち位置と変わらぬ前提～
2024年9月17日	円高の背景にある需給改善～金利差に限らず～
2024年9月13日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年8月分)
	週末版(ECB政策理事会を終えて～予定通りも25年以降の不透明感強～)
2024年9月11日	ECB政策理事会プレビュー～問題は2025年以降～
2024年9月10日	衰えなかった家計部門の投資意欲～資産選別の兆候も～
2024年9月9日	デジタル赤字にまつわる誤解～米国独り勝ちというバイアス～
2024年9月6日	週末版
2024年9月5日	ドイツ産業空洞化とユーロ相場について
2024年9月4日	いよいよ注目され始めたドイツの産業空洞化
2024年9月3日	大混乱から1か月～市場は安定を取り戻したか？～
2024年8月30日	週末版
2024年8月29日	日銀の自然利子率推計について～「中立金利1%」説～
2024年8月27日	ドル売りの持続性は？～買われるユーロ、英ポンド、円～
2024年8月26日	パウエル講演を受けて～気になる労働市場への評価～
2024年8月23日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～ユーロ相場の先行きについて～)
2024年8月21日	円ロングの積み上げが続くリスクはあるのか
2024年8月20日	企業買収を通じた対内直接投資の現状について
2024年8月19日	財PPP vs. サービスPPP～正しいのは円安か、円高か～
2024年8月16日	週末版(欧州経済の現状について～人手不足から需要不足へ～)
2024年8月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年7月分)
	ポスト岸田の考え方～金融政策の大勢に影響なし～
2024年8月14日	24年上半期の需給環境について～ほぼ均衡～
2024年8月13日	投機が去った円相場～注目は「家計の円売り」へ～
2024年8月9日	週末版(「円安バブル」報道について②～2005～07年との比較分析～)
2024年8月8日	「円安バブル」報道について①～05～07年との比較分析～
2024年8月2日	週末版(「日銀は変わった」はいつまで続くか～「やっぱり変わっていないかった」の怖さ～)
2024年8月1日	日銀会合を受けて～ドル/円相場の考え方～
2024年7月25日	週末版
2024年7月24日	インバウンド、「量」から「質」の意味するもの
2024年7月23日	バイデン撤退も市場動かず～円ショートは依然膨大～
2024年7月19日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「賃金は必ず下がる」という自信～)
2024年7月18日	日銀会合プレビュー～円高だからこそ利上げ～
2024年7月17日	進むインフレ税による財政再建～資金循環統計～
2024年7月16日	復活しつつある「インフレの輸入」～利上げへの追い風～
2024年7月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分)
	週末版(金利差に騒がない大事さ～問題は投機が去った後～)
2024年7月11日	株価、「真正正銘のバブル超え」の読み方
2024年7月10日	最近の円相場の需給環境について
2024年7月8日	米大統領選挙、現時点の解釈～為替市場の視点～
2024年7月4日	円安功罪論について～総論と各論を分けるべし～
2024年7月3日	短観(6月調査)が意味するもの～利上げは可能か～
2024年7月2日	フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年7月1日	24年上半期を終えて～円は真正正銘の最弱通貨～
2024年6月28日	週末版
2024年6月27日	家計金融資産の現状～外貨比率は最高値更新へ～
2024年6月25日	「隠れ円安」への正しい理解～実効円安を見る努力を～
2024年6月24日	為替政策報告書～日本のリスト入りは形式上の不備～
2024年6月21日	週末版(欧州委員会による財政是正措置勧告～フランス極右政党 vs. 欧州委員会～)
2024年6月19日	本邦5月貿易収支を受けて～思ったよりも減らない赤字～
2024年6月18日	久しぶりの欧州政治騒動～27年まで波乱無しが基本に～
2024年6月17日	日銀金融政策決定会合を終えて～上がる期待値～
2024年6月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年5月分)
	週末版
2024年6月13日	FOMCを終えて～中立金利上昇と為替見通し～
2024年6月12日	既に前年実績を超えてしまった「家計の円売り」
2024年6月11日	懸念される旅行収支黒字の頭打ちという未来
2024年6月10日	円相場の需給環境について～4月までの総括～
2024年6月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利下げ局面入りへ～)
2024年6月5日	証券投資は巻き返すか？～収益率で考える未来～
2024年6月4日	散えて考える対内直接投資促進の「負の側面」
2024年6月3日	強含む経済指標に囲まれるECB～ユーロ相場の考え方～
2024年5月31日	週末版
2024年5月29日	虚しく響く「33年連続、世界最大の対外純資産国」の肩書き
2024年5月28日	「This time is different」は利上げ予告か～内田講演～
2024年5月27日	加速したユーロ圏妥結賃金とECBブログの言い分
2024年5月24日	週末版
2024年5月23日	金利差縮小でも円安修正は進まず～議事要旨を受けて～
2024年5月22日	「もしトラ」で注目される欧州の立ち回り
2024年5月21日	ユーロ圏経済の近況～「底入れ」という不都合な真実～
2024年5月20日	垣間見えたECBの「次の一手」～ECB理事インタビュー～
2024年5月17日	週末版(色濃くなるスタグフレーションの様相～窮屈になる日銀の政策環境～)
2024年5月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年4月分)
	円安抑止の処方箋～即効性と持続性のトレードオフ～
2024年5月14日	通貨政策化する金融政策～定着する「為替との戦い」～
2024年5月13日	i～3月期国際収支統計～需給改善を確認～
2024年5月10日	週末版
2024年5月9日	遂にインフレ税が始まったのか？～円安と債務～